

セーターで家庭洗いとの差を

自信持って良い商品をめざそう！

一度じっくりお話しを聴きたいと思っていた大阪・丸善舎(米田英一代表 本店|天王寺区大道)を訪ねた。米田氏は、匠システムの創始者として同システムの普及・指導に全国をまわると、いわば業界通の現場人である。

とにかく「良い商品づくりなくして、明日の業界はない」との思いは人一倍、いや数倍かも。そんな思いが同社独自の溶剤浄化機「Xクリーン」をつくり、仲間を広めるほかにも、加工剤等もオリジナル。その現場のうんちく話に耳を傾け、また歯に衣着せぬ業界批評が面白かった。全国に宅配デリバリー「洗濯急便」も最初に立ち上げたのもこの人だったが、今回は現場の運営方法や加工などを語ってもらった。

大阪 (有丸善舎)

冒頭、本店において4つの料金コース一覽ディ、真の同社オリジナルのフスプレイに示された「ゲイルター」「Xプラス」が、目についた。ダイカラー「ド・オーダー・ロイヤル・加工」を指差しながら米田代表は「この業界は、営業力、カウンターには比較的強いが、但し、時代の良さを活かす方法こんなコース別の商品力を応用したものである。2000Wほど回せるというの先生は多いが、商品づくり専門の先生が、ほとんどいない」という。なるほど、わが業の課題に「つた」と記者も思った。

◆独自のフィルター方式で適確な溶剤管理も



米田英一代表

まで色が付かない。使いこなせば、KB値35ほどの効果を出せる。やり方次第だと米田代表。2階に上がると、2棟あつて一方はスタンダード用、もう一方は、他の加工用タンブラーと仕上げコーナー。すべて静止乾燥仕様は当然のことのようだ。

◆品質の差をお客にわかるか、その理由は「品質の差がはっきり分かるのは加工です」と。だから、何度も「お客さんが触って肌触りで分かる品質でなければ」というはずである。

この加工乾燥機は「セーター専門で、柔らかく、ふっくら上がるので、独自の合理的加工方式を語る米田代表。セーターだけはスタンダードでもカシミア加工のサービス。家庭洗いとの差別化が大切だと強調した。

◆乾燥段階の中に自動運転で加工工程を入れる。その加工工程の説明では「顧客離れをさせない急所だ」とさりなく語ったからである。

◆乾燥段階の中に自動運転で加工工程を入れる。その加工工程の説明では「顧客離れをさせない急所だ」とさりなく語ったからである。

式の生産工程では「特殊な加工もシステムの中に入れてもらうのが前提です。だからスイッチを押してスタート。今、空いているものから加工が始まる。時間は大体1分で終わると、次にすぐファンが回り乾燥工程に入る」しくみ。ここがポイントで、「加工」という別の工程と違い、余計な作業を行うが実はそうであつてはならない」と米田代表は話している。入念な加工にも合理性を採用しているのである。

◆手待ちのない成型仕上げシステムを採用1加工後はすべて成型機にかける。生産性を高めるには、手待ちを作らないこと。成型機も1台だけだと、かけて押しして作業の手を止めないように数台の人体成型仕上げを併用。手待ちをなくすためである。仕上げ機はすべて独ファイ社製。数年前に入れたアラウス仕上げ機は、500万で購入。機器にもこだわると、米田代表の真骨頂がよく現れているといえよう。

石油機16K1台使用で年間27万円の経費削減

こんな米田代表独自の方式は、現在、(株)匠システムが、溶剤管理の簡素化、ランニングコストの大幅削減が可能として販売普及され、すぐぶる高い評価を得ている。全ドラでも掲載した、このある大阪市のエクセルヨシノヤ(石油16K機

この年間コストが21万6000円となり、約27万円の削減になったという事例もあり、喜ばれている。

米田代表によると、ドライ機2台使用の場合、さらに削減効果は大きいとのことである。

また通常、ベースタンク内はボタントラップからポンプ吸入口への一方通行のため、隅にスラッシュやリントが溜まってしまつが、導入後はベースタンク内に液循環を起すことでヘッドロの滞留防止、きれいな液状態を保っている。

現場感覚の米田代表に相談があればどうぞ遠慮なくという米田代表である。

手間やコストをかけず高品質を実現する匠システムの商品ラインアップ

株式会社 匠システム TEL.06-7500-7501 住所:大阪府阿倍野区桃ヶ池町1丁目11-6

詳しくは、ホームページをご覧ください。 匠システム 溶剤 検索

使用では、導入前はフィルター交換、カーボン交換とも年14回。他社製溶剤浄化機などを含めて年間コストが49万4000円であったが、導入後はフィルター交換が年4回と大幅減少。カーボンタンク用カーボンも不要になった。